

平成 17 年度主任者部会年次大会（第 46 回放射線管理研修会）

—実行委員として参加して—

技術センター 医学部等部門

辻村 智隆

1. はじめに

昨年度からではあるが、特に今年度は、放射線安全管理分野で大きな動きがあった。それは、昭和 32 年に制定された放射性同位元素等による放射線障害の防止に関する法律（以下「放射線障害防止法」という）が、今までにない大幅な改正があった。更に、大量の放射線によって、多くの人々が犠牲となった広島・長崎の原爆被ばくから 60 周年にあたる今年、広島で主任者年次大会（第 46 回放射線管理研修会）が、平成 17 年 11 月 17 日（木）、18 日（金）に広島県民文化センター（鯉城会館）で開催された。



大会会場



大会風景

この大会は放射線主任者部会が開催するもので、部会員の情報収集や情報交換の場として、例年、主任者部会年次大会として各地で開催されている。大会での講演やシンポジウム、ポスター発表、各分科会活動報告及び交流会での懇談を通して、放射線安全管理の諸問題について、広い立場から論議し、その具体的対応策について研修することを目的に開催されている。主任者部会とは、全国の放射線施設の放射線取扱主任者及び放射線安全管理実務担当者によって構成されている組織で、放射性同位元素等の安全管理に関する知識、技術の向上と普及をはかり、放射線障害防止に寄与し、放射線取扱主任者及び放射線安全管理実務担当者のみならず一般公衆に対しても、放射線障害防止に関する教育・啓蒙活動を行っている。

平成 16 年 3 月 31 日現在、医療機関、研究機関、教育機関、民間機関、販売事業所、賃貸事業所、廃棄業者、その他で、RI 等取扱事業所数（許可、届出）は 4,764 箇所である。RI 等を取扱事業所は放射線取扱主任者免許状を所持した放射線取扱主任者が法的に必ず一人は必要である。よって全国には、かなりの数の放射線取扱主任者及び放射線安全管理実務担当者がいる。

今回の年次大会のメインテーマは、「放射線利用の安全性」で、このテーマの趣旨は、「本年が広島・長崎の原爆被曝 60 周年にあたることから、放射線の危険性について再認識すること」、「大幅な法令改正を受けて、今後の合理的規制と安全性の確保について考えようということ」、更に「放射線の平和利用、安全利用を基本とする放射線利用の原点について改めて考えてもらうこと」である。

今年度は、広島で開催されるに当たって、放射線主任者部会・中国四国支部会が担当することになった。技術センターからは辻村智隆（医学部等部門）、北川和英（原爆放射線医科学研究所部門）が実行委員として参加した。また、「放射線障害防止法改正に伴って一管理区域外での下限数量非密封 RI の使用における医学部歯学部 RI 研究共同施設の取組み及び管理体制一」と題して、辻村がポスター発表を行った。

2. 開催までの経緯

- 平成 15 年 5 月 9 日 平成 15 年度第 1 回中国・四国支部委員会
本部運営委員会からの依頼、中国・四国支部で担当決定。
- 平成 16 年 5 月 14 日 平成 16 年度第 1 回中国・四国支部委員会
開催地は広島、期間は 11 月初旬と決定。
- 平成 16 年 6 月 8 日 会場予約
会場を広島県民文化センター、地下展示室をポスター展示及び機器展示会場と決定。また、鯉城会館で分科会、交流会を開催決定。開催日は平成 17 年 9 月 17 日（木）、18 日（金）と決定。会場の予約申し込みを行う。
- 平成 16 年 8 月 18 日 分科会、交流会会場の予約
分科会、交流会会場として鯉城会館の予約。
- 平成 17 年 3 月 22 日 第 1 回実行準備委員会
実行委員会委員の了承。大会実行委員長を支部長とすることを決定。メインテーマ、特別講演、シンポジウム等の検討。
- 平成 17 年 6 月 10 日 第 1 回実行委員会
メインテーマ、シンポジウムのテーマの決定、特別講演の講師の了承。
- 平成 17 年 7 月 29 日 第 2 回実行委員会
シンポジウム講師、大会アピール案の検討。スケジュール、見学会、交流会の概要の検討。
- 平成 17 年 8 月 9 日 会場付帯設備の打合わせ
ホール、分科会会場の付帯設備の確認。見積もり依頼。
- 平成 17 年 9 月 10 日 第 3 回実行委員会
シンポジウム講師の確認。会場配置図、受付、ポスター展示、機器展示、相談コーナーのレイアウト、大会進行スケジュール、人員配置等の検討。
- 平成 17 年 9 月 17 日、18 日 大会当日

以下に、平成 17 年度主任者部会年次大会実行委員会の委員を記載する。（敬称略）

静間 清 大会実行委員長（広島大学大学院工学研究科）、**大会事務局** 中島 覚（広島大学自然科学研究支援開発センター）及び稲田晋宜（広島大学自然科学研究支援開発センター）、以下委員、井出利憲（広島大学大学院医歯薬学総合研究科）、岩谷和夫（広島県立保健福祉大学）、大野忠吉（岐山化工機安全衛生管理室）、小野俊朗（岡山大学自然科学研究支援センター）、鑛山宗利（岡山大学自然科学研究支援センター）、北川和英（広島大学技術センター）、重保 博（アロカ株式会社広島支店）、柴田 均（島根大学生物資源科学部）、須田博文（香川大学総合生命科学実験センター）、竹味弘勝（広島国際大学保健医療学部）、辻村智隆（広島大学技術センター）、成相 透（島根大学総合科学研究支援センター）、長谷川豊司（(株)大塚製薬工場）、堀口隆良（広島国際大学保健医療学部）、松本和明（富士電機システムズ(株)）、三好弘一（徳島大学アイソトープ総合センター）、安田 豊（(株)千代田テクノル）

・大会 WG 担当役割分担

総務 WG, 会場運営 WG, 学術 WG, 見学その他 WG の 4 つの WG を作り, 各項目に内容, 責任者, 主メンバーを取り決めた.

総務 WG

準備事務局 (会場折衝), 庶務・広報 (RI ニュース原稿・DW 作成), 運営 (会場レイアウト, 計画), 受付・接待 (講師受付・案内)

会場運営 WG

式典・祭事 (総会運営・大会アピール), 機器・ポスター展示 (会場準備運営・対外折衝), 相談コーナー (準備・相談員対応)

学術 WG

プログラム編成 (プログラム構成担当), 特別講演 (講演手配・座長), シンポジウム (座長・パネラー担当), 分科会 (分科会報告運営・司会), 要旨集 (要旨集構成担当)

見学その他 WG

見学会 (見学受付・見学先調整), 交流会 (会場準備・イベント), 対外折衝 (広島県・観光協会他)



平成 17 年度主任者部会 年次大会 実行委員会

3. 平成 17 年度主任者年次大会 (第 46 回放射線管理研修会) 開催内容

今日, 放射線が学術分野のほかに医療や産業等の広範囲な分野で有効に利用され, 最近の機器性能の向上により, 利用者は, つい安全性に慣れてしまいがちになる. 原爆に限らず, 管理体制を失った放射線は危険性があることを, 利用者及び安全管理担当者は忘れてはならない. 後述に大会内容をかなり詳しく記載した. これは, 放射線取扱主任者及び放射線安全管理実務担当者等が, 真剣に安全管理に取り組んでいることを見てほしい. また, 広島大学技術センターが主催する機器分析年次大会の参考になれば幸いである.

…………… 第 1 日目 ……………

9:00～ 受付

10:00～11:00 開会の挨拶等

大会実行委員長挨拶, 主任者部会総会・部会長挨拶, 支部活動報告及び本部委員会報告, 質疑討議 (北海道支部, 東北支部, 関東支部, 中部支部, 近畿支部, 中国四国支部, 九州支部の七支部の支部長の活動報告)

11:00～12:00 特別講演 I

「放射線安全行政について」

小原 薫氏 (文部科学省 技術学術政策局 原子力安全課 放射線規制室室長)

12:00～13:15 昼食休憩

13:15～15:25 シンポジウム

本年、大幅改正が行われた法令に、具体的に対応してゆくために「新法令への対応の実際」を、テーマとして、シンポジウムが行われた。

- (1) 「法令対応の要点」 江田和由 氏（文部科学省放射線規制室）
- (2) 「管理区域外での RI の取扱い—広島大学の場合」 井出利憲 氏（広島大学医歯薬学総合研究科）
- (3) 「新しい点検制度と定期講習制度について」 阿南 徹 氏（原子力安全技術センター）
- (4) 「表示付承認機器の取扱い」 安田昌門 氏（島津製作所）
（質疑討議）

15:35～16:50 分科会活動

主任者部会では、現在 5 つの分科会が活動している。2 日間に分けて個別会場で行い、17 日は以下 3 つの分科会が行われた。

- (1) 放射線計測分科会
「これから望む新しい計測機器とは」 野村貴美 氏（東京大学）
- (2) 選任主任者分科会
「法令改正に伴う選任された主任者の現場対応の問題と課題」
 - ① オーガナイズレクチャー「主任者のモチベーション」 菊池 透 氏（自治医科大学 RI センター）
 - ② 「新たな定期確認の対応ポイント」 阿南 徹 氏（原子力安全技術センター）
 - ③ 「新たな定期確認の対応ポイント」 斉藤 直 氏（大阪大学 RI 総合センター）
 - ④ 「選任主任者の問題と課題，そして責任」 井原 智 氏（杏林大学医学部）
- (3) PET 施設管理研究会 佐々木将博 氏（姫路中央病院附属クリニック）

17:00～18:15 特別講演Ⅱ

「新しい原爆線量評価体系 DS02 とセミパラチンスクの被ばく調査」
星 正治 氏（広島大学原爆放射線医科学研究所）

18:30～20:30 交流会

大会会場に併設している鯉城会館で行われた。酒処として知られた広島の地酒や広島ならではの料理の他に、酒造りに由来する「西条酒造り歌」「西条たる踊り」が行われた。交流会参加者 235 名。

- (1) 開会挨拶，(2) 来賓挨拶，(3) 挨拶，(4) 乾杯・食事・歓談，(5) アトラクション（西条酒造り歌と西条たる踊り；東広島さくらの会代表 渡辺 公子 氏），(6) ポスター発表表彰式（静間大会実行委員長より表彰及び賞品授与），(7) ゲーム（ビンゴ）・食事・歓談，(8) 来年度開催地案内，(9) 閉会挨拶



交流会会場

…………… 第 1 日目終了 ……………

第1日目のその他の会場風景

【機器展示 9:00～17:30】

機器メーカーから最新の放射線関連機器の展示

【書籍コーナー 9:00～17:30】

放射線分野の出版物の販売

【ポスター展示 12:00～17:30】

日頃の放射線取扱主任者及び実務管理担当者の努力、工夫の発表、興味ある放射線利用の紹介、支部、委員会、分科会活動紹介と情報交換の場として、今年度も行われた。2つのグループに分かれ、発表が行われた。(Aグループ; 奇数番号, Bグループ; 偶数番号)



ポスター展示会場

【相談コーナー 15:35～16:50】

新法令への対応の他、日頃の疑問や困ったこと等について

…………… 第2日目 ……………

9:00～ 受付

9:30～10:45 分科会活動

- ・教育訓練問題検討分科会 高淵雅廣 氏 (大阪医科大学)
- ・立入検査分科会 須田博文 氏 (香川大学)

11:00～12:00 特別講演Ⅲ

「緊急被ばく医療ネットワークと新しい放射線障害医療の研究」

神谷研二 氏 (広島大学原爆放射線医科学研究所)

12:00～12:30 閉会

次回開催の紹介, 年次大会アピール採択, 閉会, 大会アピール

13:30～15:30 見学会

- (1) (財)放射線影響研究所
- (2) 仁科芳雄博士の生家と仁科会館

4. 開催までの準備

・前年度の大会の検証

岩手県盛岡市で行われた情報を検証 (プログラム進行, 会場レイアウトなど)

・会場の付帯設備の確認 (電源等の確認, プロジェクター, 照明など)

・大会の会場レイアウト, 垂れ幕及び看板 (図1～図4参照)

メイン会場 (多目的ホール), 会場の1階, 会場2階, 会場地下1階, スタッフ控え室, 来賓室, ポスター発表会場, 機器展示会場, 受付, 相談コーナー, 地下1階展示ロビー付近, 2階ホワイエ付近, 分科会会場である5階の部屋, 看板の位置, 1階の看板の位置, 2階の看板の位置, 5階の看板の位置, 大会の垂れ幕, メイン会場の垂れ幕, 大会の看板, 講演者・座長・司会等の垂れ幕看板

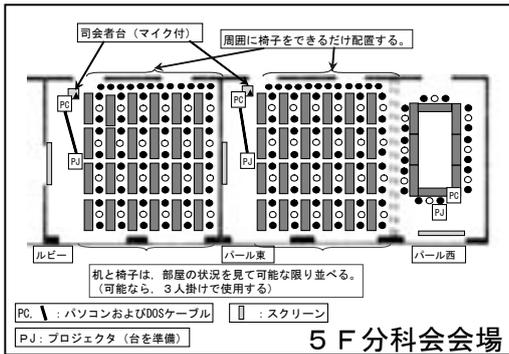


図1 分科会会場のレイアウト例

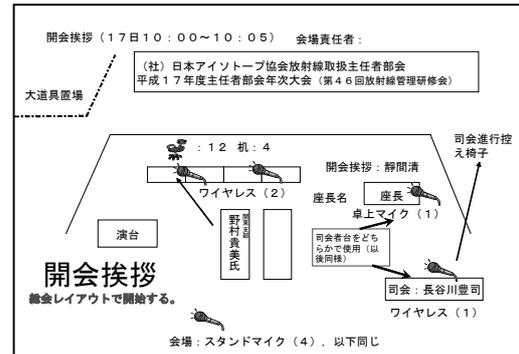


図2 メイン会場のレイアウト例

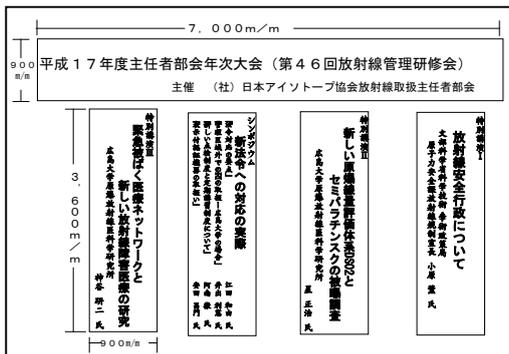


図3 垂れ幕の一例



図4 看板の一例

5. HPの立上げなど

- 平成17年度主任者部会年次大会のホームページ
大会の内容、プログラム、広島開催アピール、交通マップ、写真の導入（宮島、平和公園、原爆ドーム、広島城）、広島市のお店マップ（特に、大会会場付近）

6. 大会後の作業

- 大会報告（isotope news 雑誌に掲載）
- アンケート集計

7. おわりに

技術センター技術職員は学内業務だけでなく、学外活動にも積極的に取り組み、技術技能を高め、得たものを学内業務に反映させたいものである。そして、平成18年9月に開催されます広島大学技術センター主催の機器・分析技術研究会の参考になれば幸いである。

参考資料及び引用文資料

- 『平成17年度主任者部会年次大会（第46回放射線管理研修会） 実行委員会資料』（2005年11月）
- 『平成17年度主任者部会年次大会（第46回放射線管理研修会） 要旨集』（2005年11月）